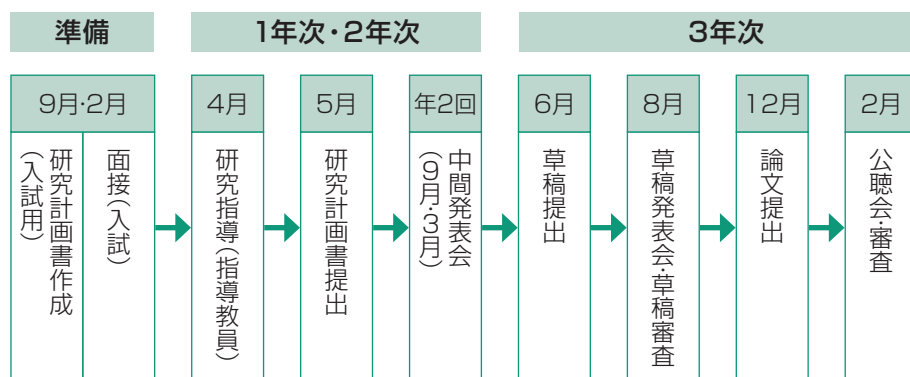


臨床の科学をめざす

研究者としてのスキルは、博士論文の執筆によって磨かれます。そのために見極めるべきことの1つはオリジナリティです。研究者あるいは実践者としての自分の中にある切実な何か、表現ないし究明せずにはいられないテーマを、どんな順序で、どう絞り込み、どのような方法で探求するのか。研究の結果だけではなく、プロセスにもその人らしさは宿ります。博士後期課程の使命は、切実さの核であり、研究者や利用者の実存性をかたちづくっている感性や実感を、博士論文というかたちで結実させ、分かちあい、継承していくお手伝いをするのだと考えています。

論文作成の流れ



これまで26名の博士(論文博士1名を含む)を輩出し、大学の教員あるいは施設の長などとして活躍しています。

特色ある取り組み

中間発表会

研究者には自律性が求められます。それは、他者の意見を聞かず、自分の主張を押し通すことではありません。面倒で複雑な(さまざまな立場からの、安易な妥協はしない)議論こそが研究者としてのスキルアップにつながると信じます。

本専攻では、ゼミの枠を越えて、年に2度、大学院生と教員による中間発表会を行っています。また、博士論文提出のまえに、草稿を発表する場を設け、論文をブラッシュアップする機会にしています。

修了要件

臨床福祉学専攻 博士後期課程の修了には所定の授業科目20単位以上の履修が必要です。また、必要な指導を受けたうえで博士論文の審査および最終試験に合格することが必要です。

編入制度

博士後期課程(社会福祉に関する)を単位修得後に満期退学され、博士論文の草稿を用意できる方には、編入の制度があります。

学位取得者

博士後期課程は昨年度に開設22周年を迎えました。これまでに課程博士25名、論文博士1名を輩出し、それぞれの分野の第一線で活躍しています。

就職に関する情報

福祉のあらゆる分野に活躍のフィールドが開けます。

- 社会福祉専攻の大学、短期大学、専門学校における教員
- 行政の企画調整分野・健康教育担当分野における職員
- 各種社会福祉施設など・地域福祉サービス機関管理者
- 精神科病院、大規模病院のソーシャルワーカー兼研究員・施設長
- 生命保険会社などの研究所の研究員
- ウェルビーイングの保証を標榜する民間企業の研究員(たとえば、住宅・家具・自動車・コンピュータなどのヒューマンインターフェイスを構築する企業)